

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	3 月	13 日	記入者	久門たつお	
調査者名	饗庭	石井	大谷	垣内	久門	鶴田

文化財名	ふくじゅ草の自生地					
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ( )	
指定年月日	1973年(昭和48)3月15日					
所在地	五條市西吉野町津越(つごし)、同町桧川迫(ひかわせ)					
所有者 管理者	個人					
員数	---					
時代区分	---					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)		
案内板の状況	津越地区では県教委・五條市連名の説明板有り。道路要所に案内板も設置。					
公開	津越地区では自由に鑑賞できるエリアが設けられている。桧川迫地区は原則非公開。					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input checked="" type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 (エリアによってはシカ、イノシシによる食害などが続いている。)					
当面の課題	2005年に策定された「大切にしたい奈良県の動植物」通称・奈良県版レッドデータブックでフクジュソウが絶滅寸前種に指定された。主な要因はシカ、イノシシなどによる獣害と、不心得者による盗難。津越地区は五條市の支援を得て10年ほど前から、公開エリアを囲む防護柵やネットを設置すると共に、盗難防止を呼び掛ける看板を設けた。成果はあがっているとのことだが、引き続き注意を払っていく必要がある。					
今後の課題	公開エリア外での獣害対策をどのように進めていくのが重要なポイントとなる。さらに絶滅分類では絶滅種の一步手前の絶滅寸前種で、絶滅危惧種より深刻な段階にある。訪れた人たちに向け、こうした状況に触れた新たな説明板設置も必要と思われる。					
その他 (由緒など)	フクジュソウ(福寿草)はキンポウゲ科の多年草植物。説明板などによると、原産地はロシア・シベリアのアムール川流域で、中国東北部や朝鮮半島、日本の主に東日本の山間地などに生育している。西日本では西吉野町の自生地は貴重な存在とされ、開花は2月上旬～3月中旬。1月1日の誕生花で、元日草とも呼ばれる。					
コメント	五條市西吉野町(旧吉野郡西吉野村)は人口減少が続く過疎地で、津越地区はフクジュソウ自生地の整備と無料公開で観賞者呼び込みを図ってきた。公開エリア近くの住民から「フクジュソウを成長させるためには周りの雑草を刈る必要がある。刈る時期が晩秋になるとフクジュソウの芽と一緒に刈ってしまう恐れがあり、気を付けている」と伺った。地区自慢の宝ものとして、住民たちの自生地維持の努力は賞賛に値する。					

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	3 月	13 日	記入者	久門たつお	
調査者名	饗庭	石井	大谷	垣内	久門	鶴田

文化財名	ふくじゅ草の自生地
------	-----------

津越地区設置の自生地公開エリアへの案内板	自生地公開エリアの傾斜地
----------------------	--------------



公開エリアのフクジュソウ。雨天では花は閉じがち	同左。2月上旬～3月中旬に花を咲かせる
-------------------------	---------------------



道路沿いに設置の県教委・五條市教委の説明板	シカ、イノシシ対策の防護柵
-----------------------	---------------

